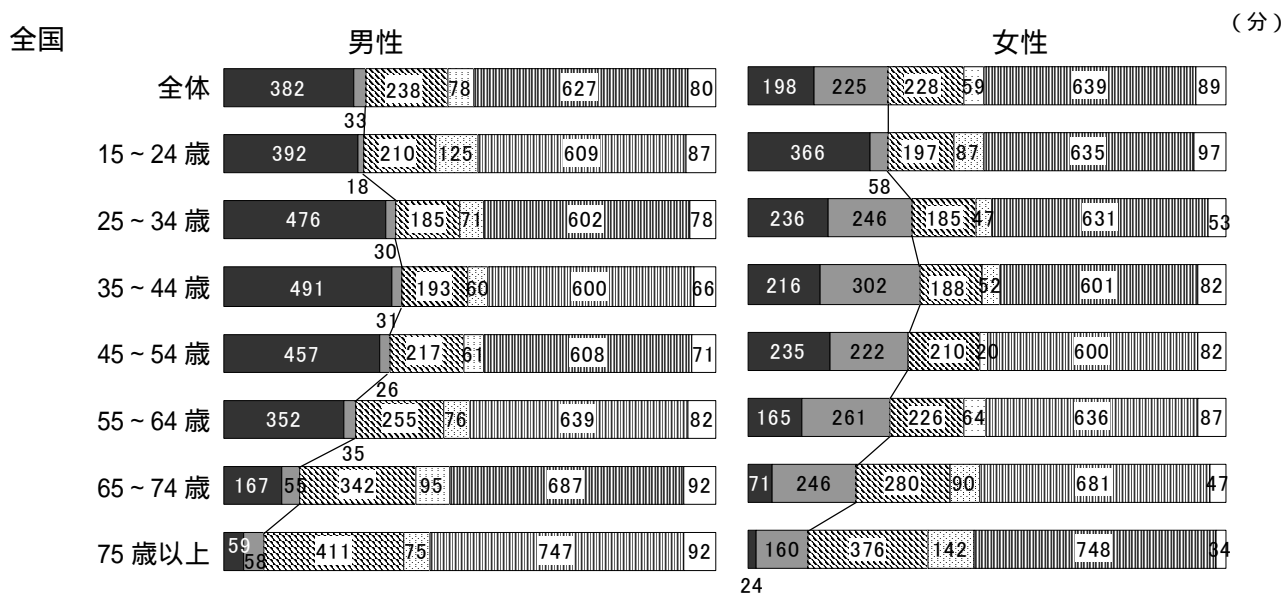
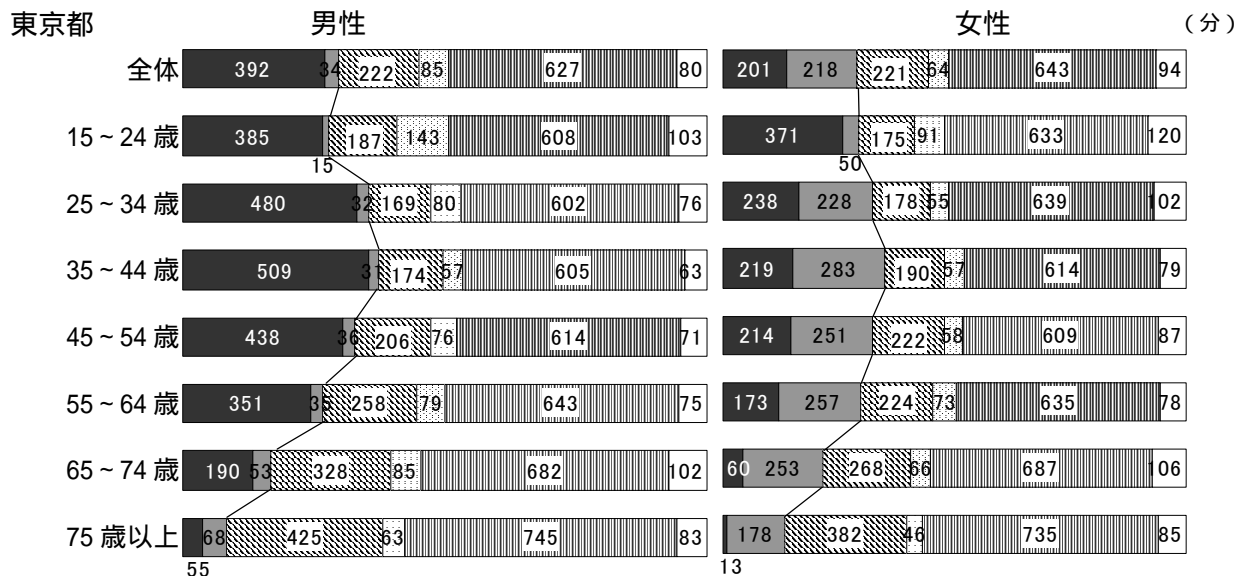


一日の生活時間

1 一日の生活時間の配分

仕事・学業関連時間と家事関連時間の合計は、東京都及び全国の男女とも、35～44歳で最も高くなっている。

図表 - 1 - 1 一日の生活時間の配分〔週全体の平均・性・年代別〕(都・全国)



■ 仕事・学業関連時間 ■ 家事関連時間
 ▨ 休養等自由時間活動 ▨ 積極的自由時間活動
 ▩ 睡眠、食事など生理的に必要な活動時間 □ その他

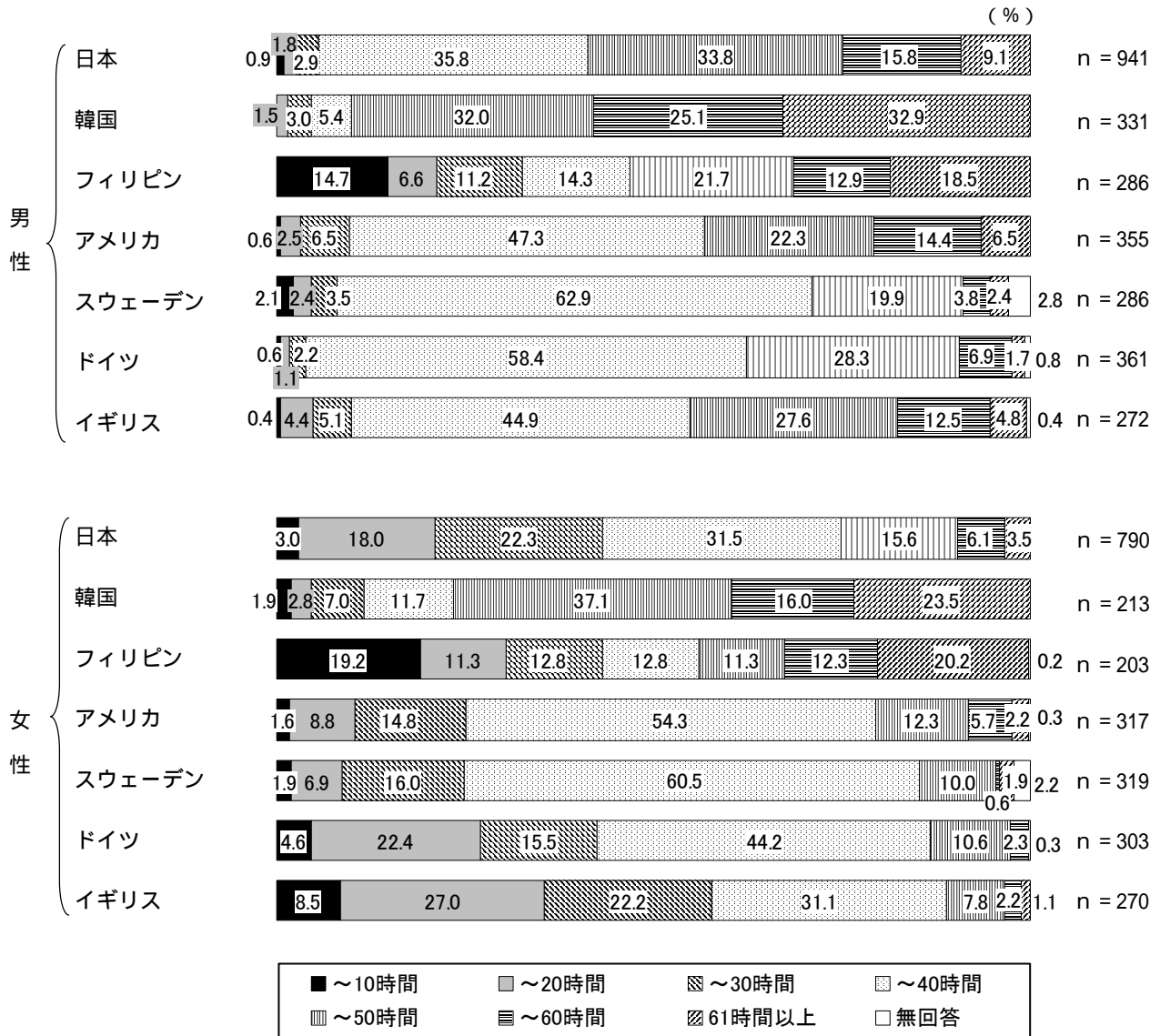
注：「仕事・学業関連時間」は、「通勤・通学」、「仕事」、「学業」の合計時間
 「家事関連時間」は、「家事」、「介護・育児」、「育児」、「買い物」の合計時間
 「休養等自由時間活動」は、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」、「休養・くつろぎ」の合計時間
 「積極的自由時間活動」は、「学習・研究(学業以外)」、「趣味・娯楽」、「スポーツ」、「ボランティア活動・社会参加活動」の合計時間
 「睡眠、食事など生理的に必要な活動時間」は、「睡眠」、「身の回りの用事」、「食事」の合計時間
 「移動(通勤・通学を除く)」、「交際・付き合い」、「受診・療養」は、その他に含めた

総務省「社会生活基本調査」2001(平成13)年

2 労働時間・勤務日数

いずれの国でも男性の方が勤務時間が長く、中でも韓国の労働時間の長さは際立っている。日本の男性は、『41時間以上』の割合が韓国に次いで多い。

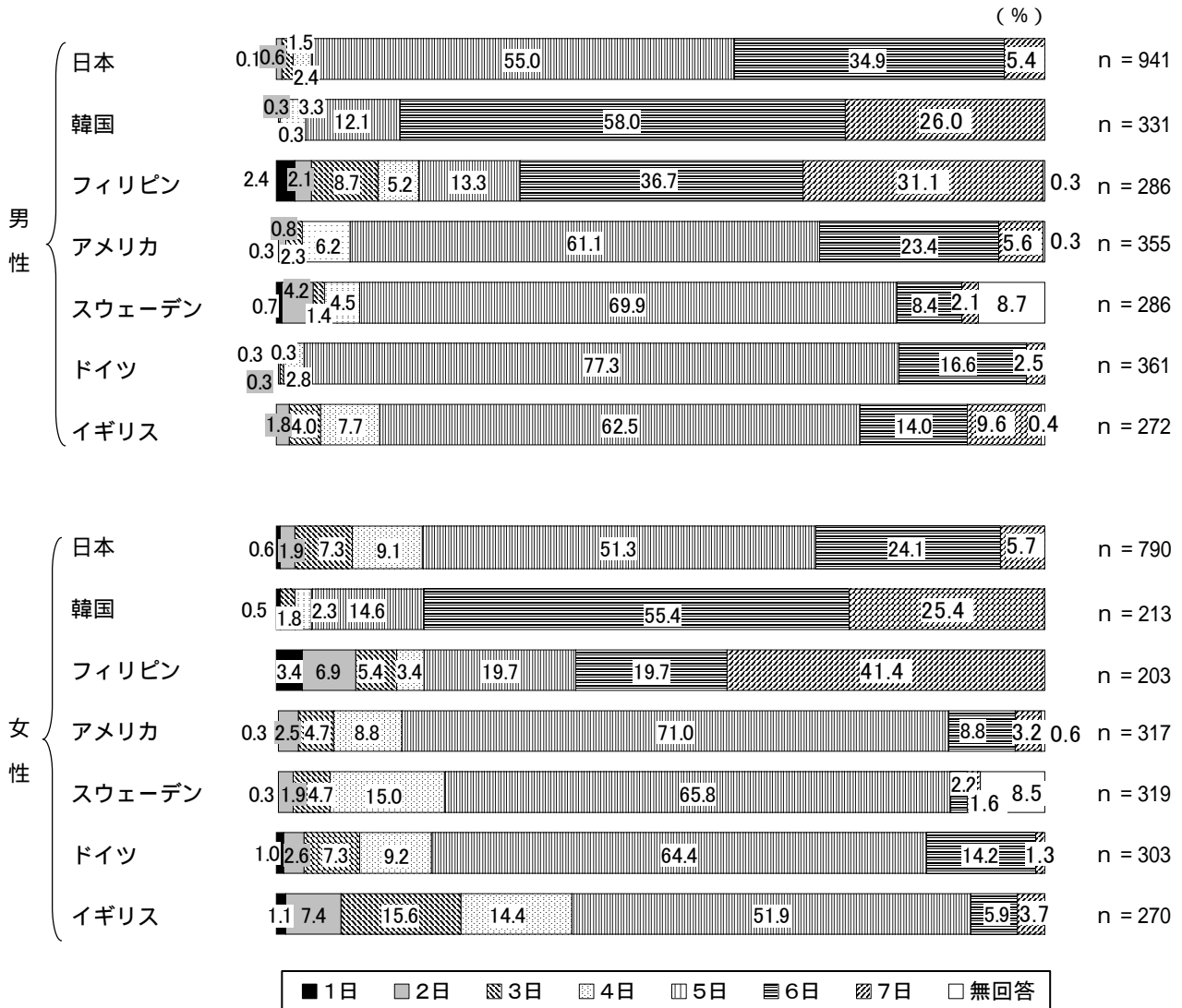
図表 - 2 - 1 週あたり勤務時間（国際比較）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」2002（平成14）年

欧米諸国では週5日制が6割を超え、日本でも週5日の勤務日数が5割を超える。韓国とフィリピンでは勤務日数が特に多い。日本の男女には大きな違いは見られない。

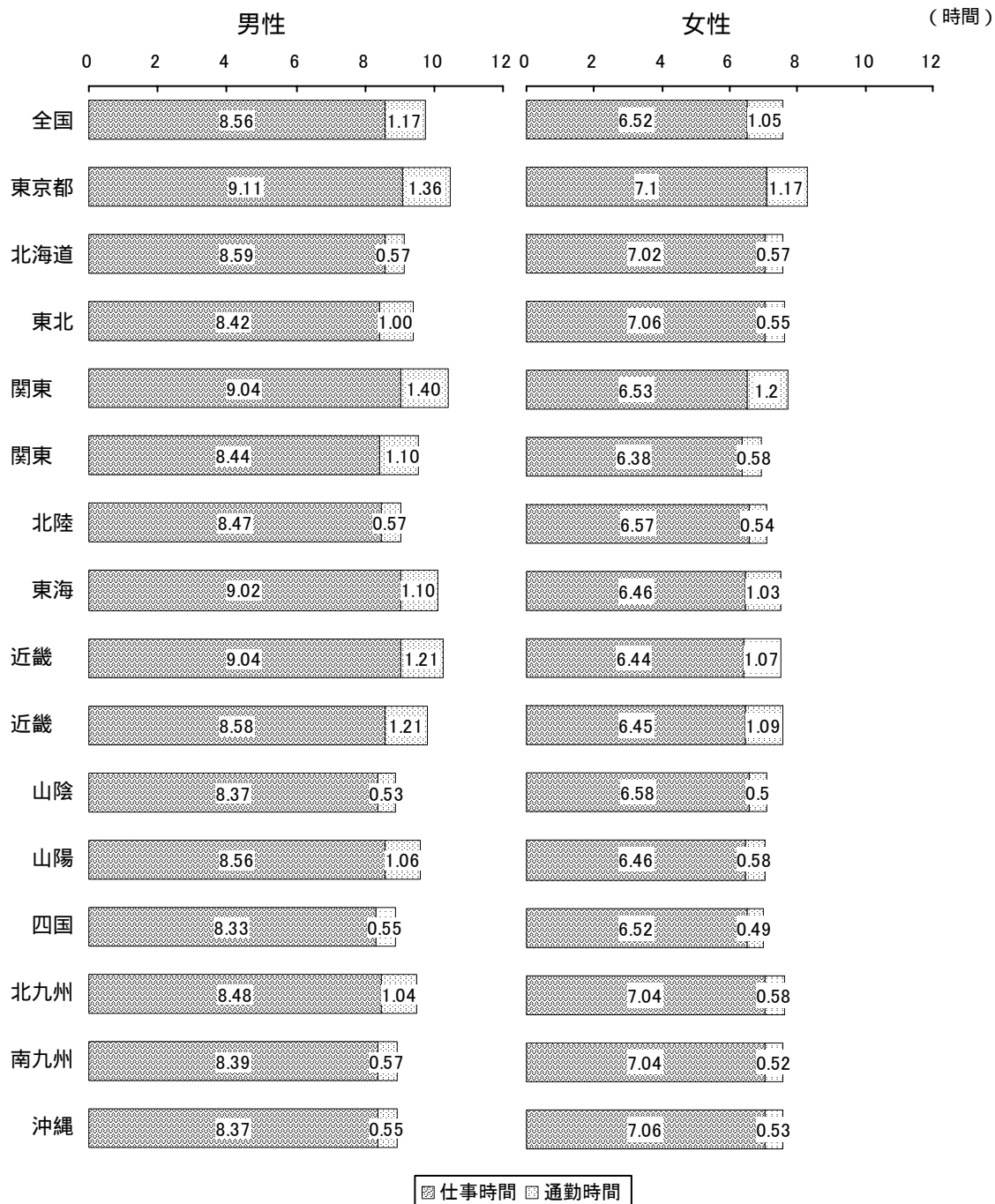
図表 - 2 - 2 週あたり勤務日数（国際比較）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」2002（平成14）年

平日における雇用者の仕事をみると、仕事時間と通勤時間の合計が最も長いのは男女ともに東京都である。通勤時間については大都市圏で長くなる傾向にある。

図表 - 2 - 3 地域別雇用者の仕事・通勤時間（平日の平均）

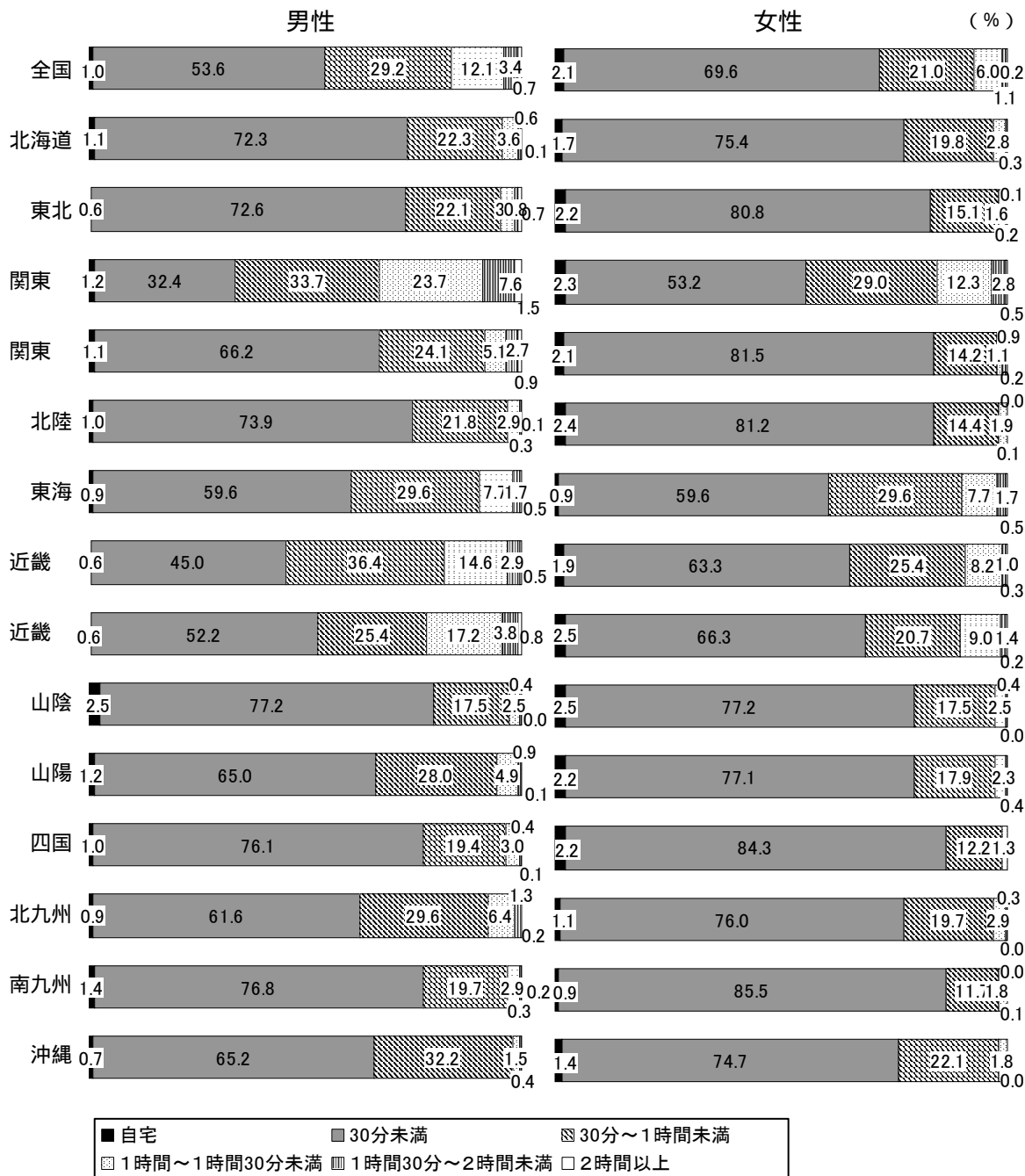


注1：「関東」は埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県、「関東」は茨城県・栃木県・群馬県・山梨県・長野県
「近畿」は京都府・大阪府・兵庫県、「近畿」は滋賀県・奈良県・和歌山県
「北九州」は福岡県・佐賀県・長崎県・大分県、「南九州」は熊本県・宮崎県・鹿児島県
注2：「平日」は月～金曜日の平均値

資料：総務省「社会生活基本調査」2001（平成13）年

通勤・通学時間が1時間以上かかる人の割合は、関東 で最も多く男性が30%、女性が15%を超えており、次いで近畿 で多く男性が約22%、女性が約10%となっている。

図表 - 2 - 4 地域別雇用の通勤・通学時間（週全体の平均）



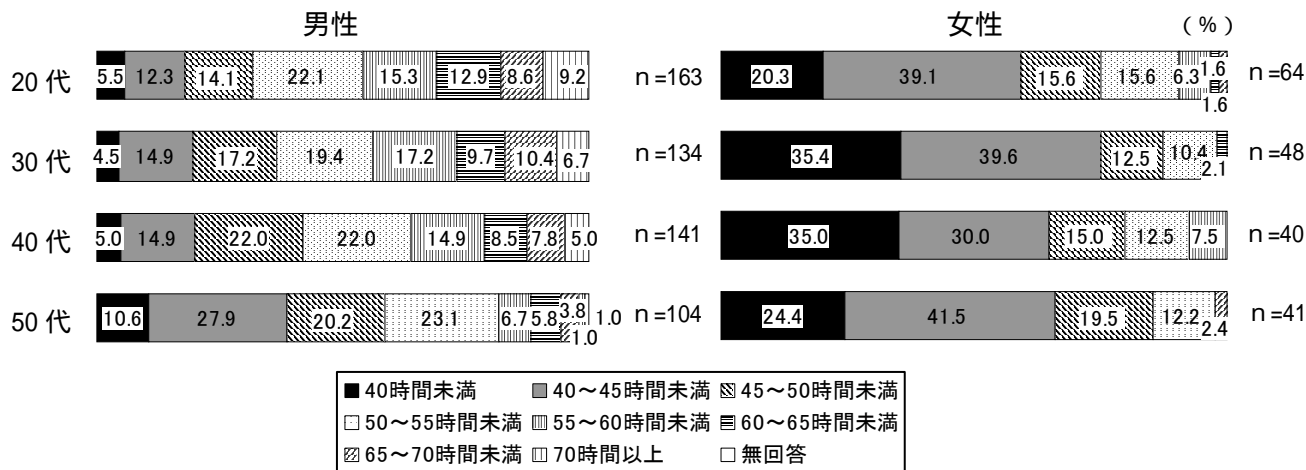
注1：「関東」は埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県、「関東」は茨城県・栃木県・群馬県・山梨県・長野県
「近畿」は京都府・大阪府・兵庫県、「近畿」は滋賀県・奈良県・和歌山県
「北九州」は福岡県・佐賀県・長崎県・大分県、「南九州」は熊本県・宮崎県・鹿児島県
注2：週全体平均は、次の式により曜日別結果を加重平均したもの。
(平日平均×5 + 土曜日平均 + 日曜日平均) ÷ 7

資料：総務省「社会生活基本調査」2001（平成13）年

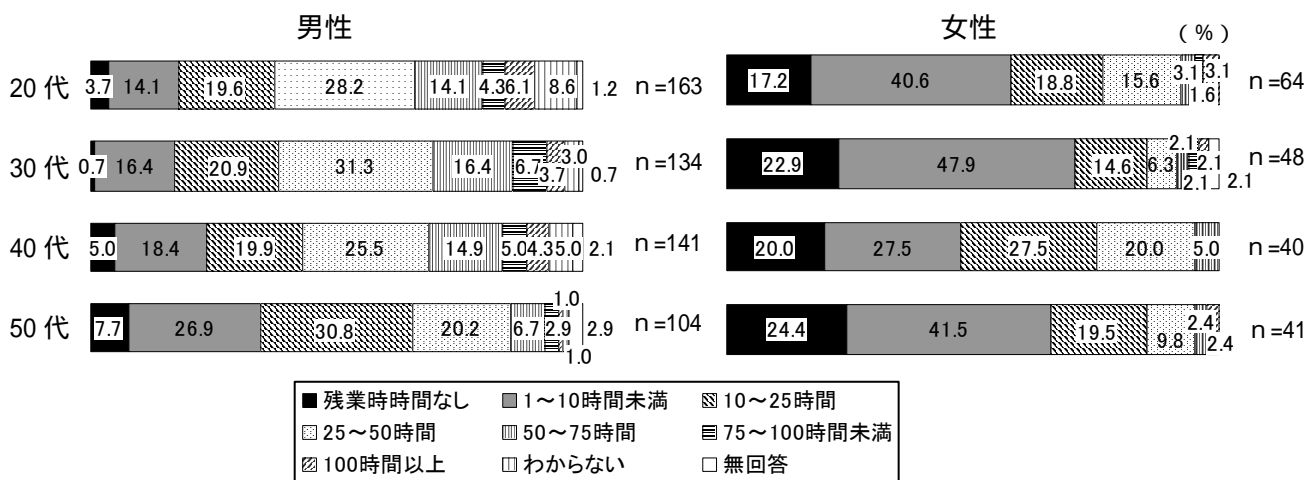
週あたり労働時間は男性の方が女性よりも多く、女性ではおおむね「40～45時間未満」の占める割合が高い。

1ヶ月の残業時間数は、男性の方が女性よりも圧倒的に長くなっている。男性では年齢が若いほど、残業時間数が長くなる傾向がみられる。女性では他の年代と比べ、40代で残業時間が長くなっている。

図表 - 2 - 5 平均的な週労働時間



図表 - 2 - 6 1ヶ月の残業時間数

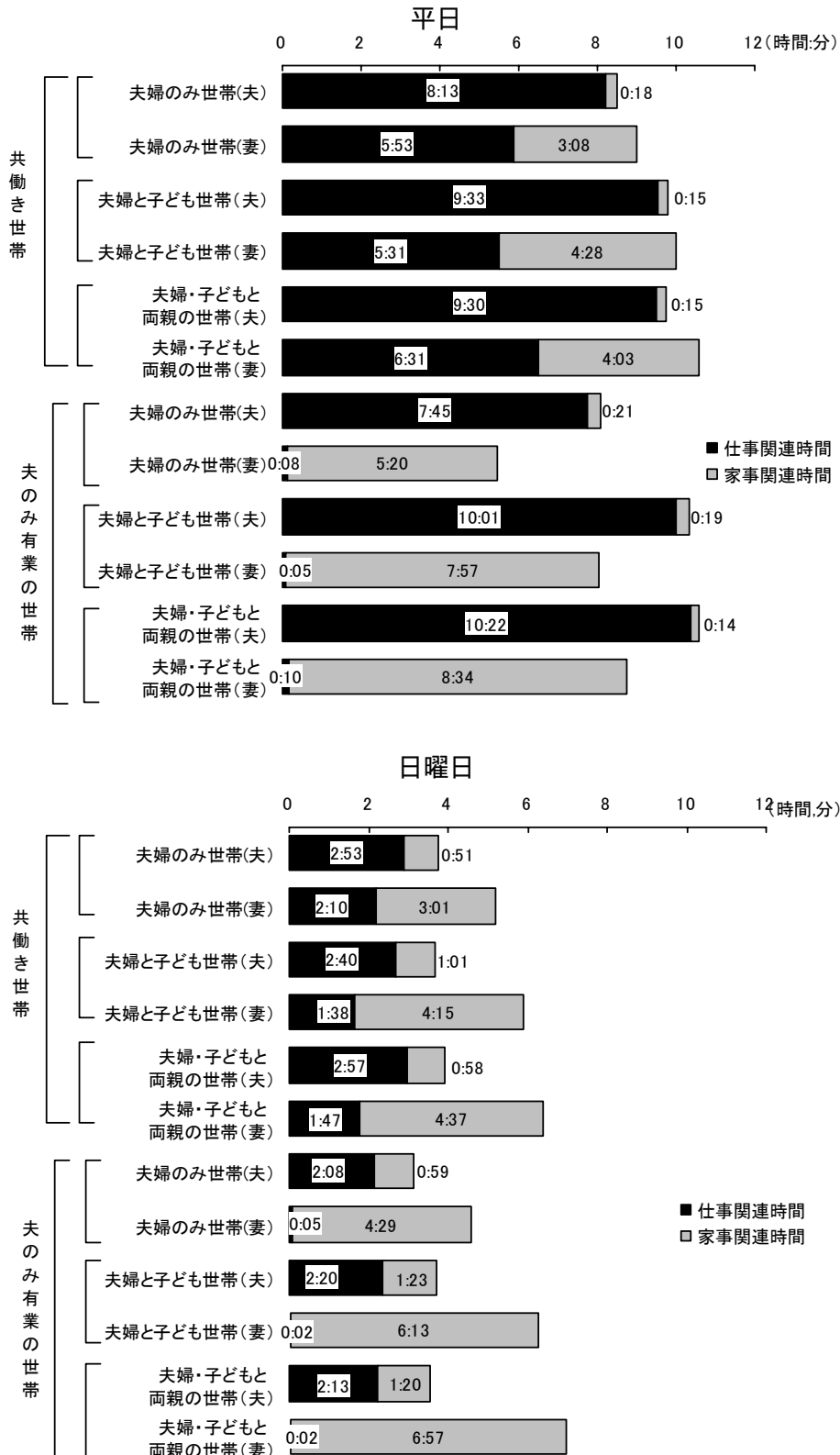


資料：(財) 連合総合生活研究所「『働き方の多様化と労働時間等の実態』に関する調査」2001(平成13)年

3 一日における家事関連時間

平日においては、共働き世帯と夫のみ有業世帯のいずれも夫の家事関連時間は30分に満たず、共働き世帯の妻は、仕事と家事の両方を担っているのが現状である。日曜日では共働き世帯でも夫のみ有業世帯でも夫の家事関連時間が若干増えて、1時間近くとなっている。

図表 - 3 - 1 夫と妻の仕事・家事時間（全国）

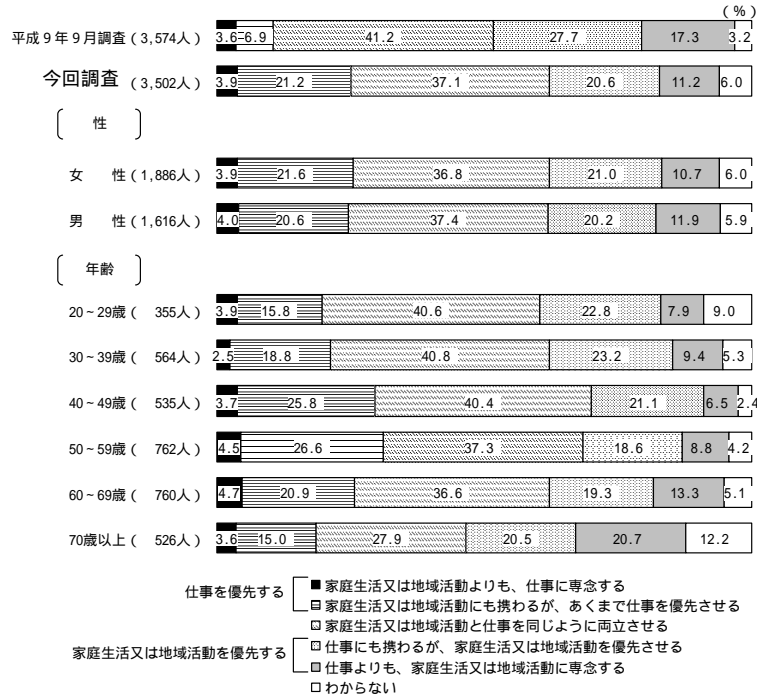


資料：総務省「社会生活基本調査」2001（平成13）年

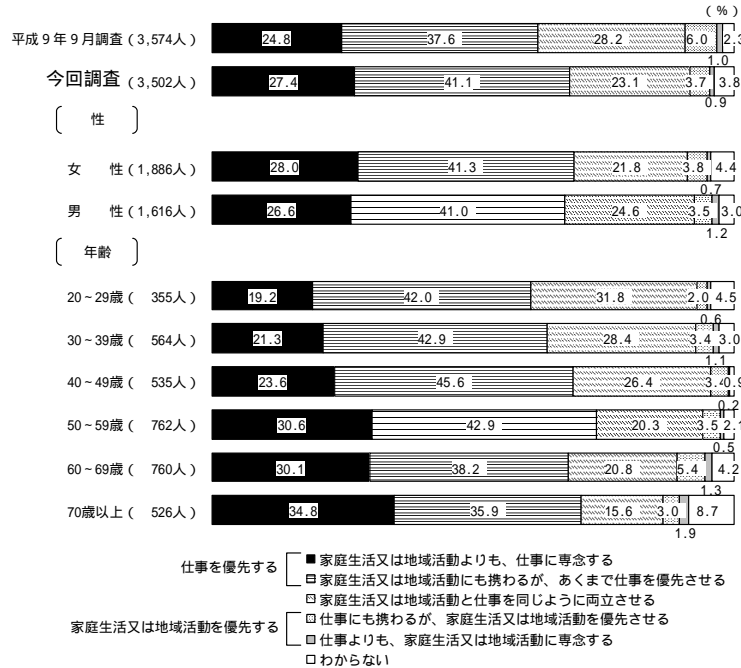
4 仕事と家庭生活または地域活動への望ましい係わり方

仕事や家庭生活、地域活動などへの係わり方については、女性の望ましい係わり方は「仕事を優先する」が25.1%であるのに対し、「家庭生活又は地域活動を優先する」は31.8%である。平成9年の調査と比較すると、「仕事を優先する」は15.1ポイント高くなっている。一方、男性の望ましい係わり方は「仕事を優先する」が68.5%と高く、「家庭生活又は地域活動を優先する」の4.6%に比べて大きな差となっている。

図表 - 4 - 1 仕事と家庭生活または地域活動への女性の望ましい係わり方（全国）



図表 - 4 - 2 仕事と家庭生活または地域活動への男性の望ましい係わり方（全国）



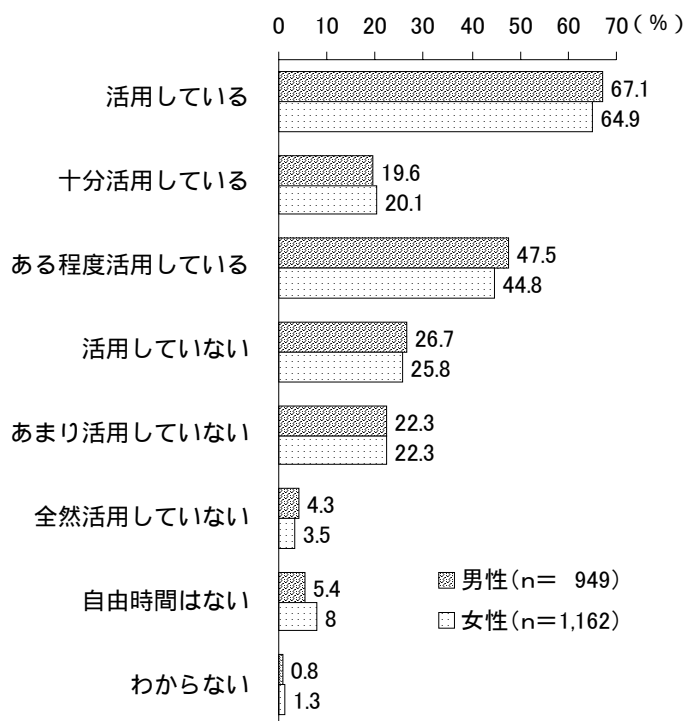
注：今回調査（平成16年11月）では、「仕事との関係において、家庭生活または町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(1)女性および(2)男性それぞれの場合について、望ましいと思うものをこの中から1つだけお答えください。」という質問。
平成9年9月調査では、「仕事と、家庭生活又は地域活動について、(1)女性及び(2)男性それぞれの生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。この中から1つだけお答えください」と聞いている。

資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」2004（平成16）年

5 自由時間

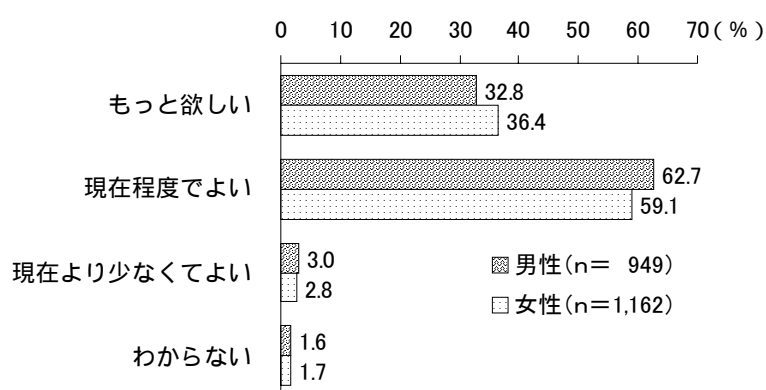
自由時間の活用状況は男女間で大きな違いはみられない。自由時間をもっと欲しいかとの問に対しては、女性の方が男性よりも「もっと欲しい」との回答の割合が高く、逆に「現在程度でよい」では男性の方が女性よりもやや高くなっている。

図表 - 5 - 1 自由時間の活用状況（全国）



注：「あなたは、現在、自由時間をどの程度活用していますか。」との質問に対する回答結果

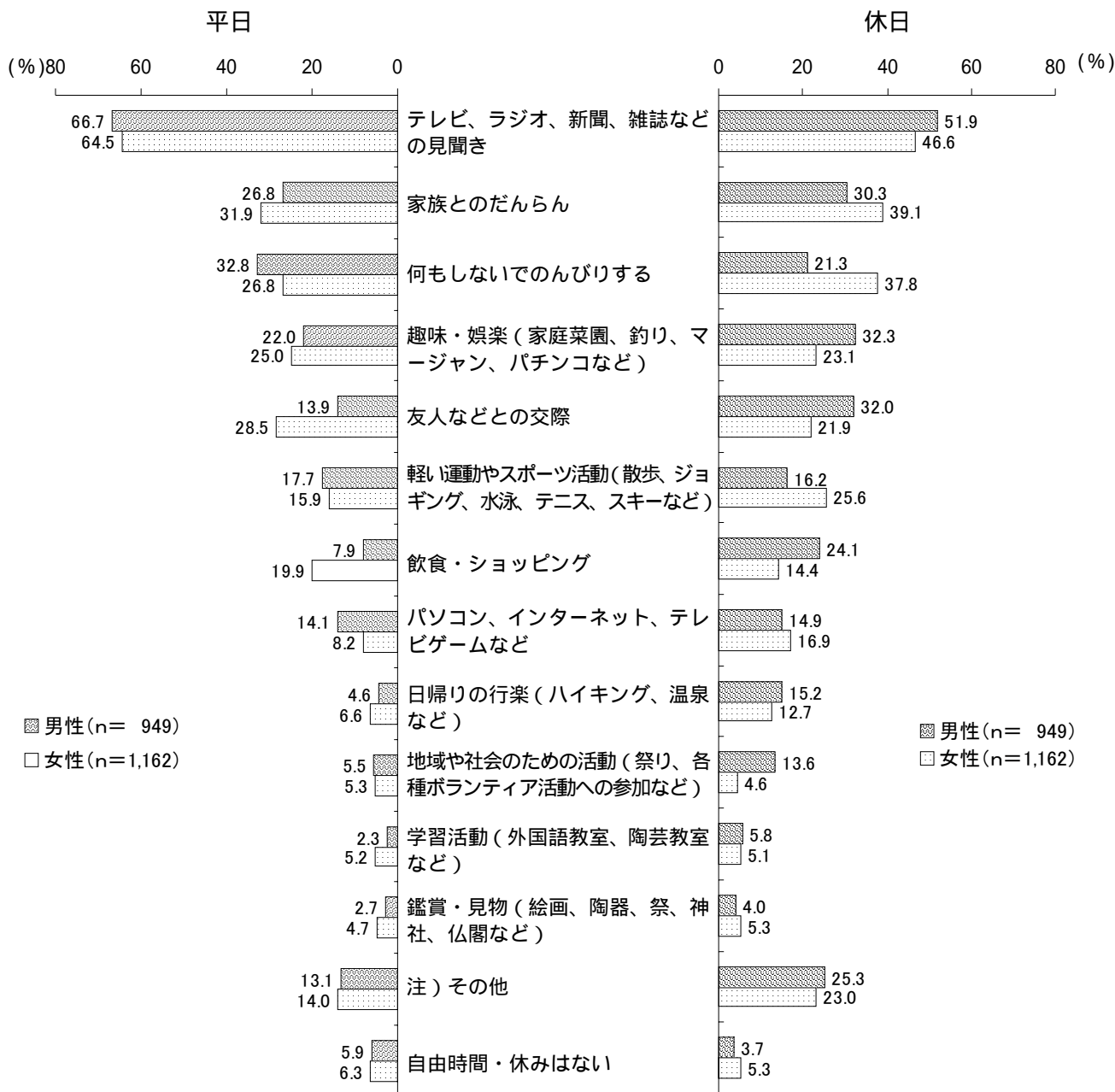
図表 - 5 - 2 自由時間への欲求（全国）



資料：内閣府「自由時間と観光に関する世論調査」2003（平成15）年

平日では、「家族とのだんらん」「友人などとの交際」「飲食・ショッピング」の割合は女性の方が男性よりも高いのに対し、「何もしないでのんびりする」では男性が女性を上回る。一方、休日では「何もしないでのんびりする」女性の割合は男性を大きく上回るが、「趣味・娯楽」「友人などとの交際」「飲食・ショッピング」では男性の方が女性よりも高くなっている。

図表 - 5 - 3 自由時間の過ごし方(全国)



注):「ドライブ」(男性4.8%、女性4.0%)、「1泊2日の宿泊旅行」(男性3.1%、女性2.6%)、「家事・帰省のための旅行」(男性0.9%、女性2.8%)、「2泊3日以上宿泊旅行」(男性2.0%、女性1.5%)、「遊園地・テーマパークなどで遊ぶ」(男性0.3%、女性1.0%)はその他に含めた。

資料：内閣府「自由時間と観光に関する世論調査」2003(平成15)年